

第IV部門 新自由主義の詭弁性とその心理的効果に関する実証研究

京都大学工学部 学生会員 ○柳川 篤志  
 京都大学大学院工学研究科 正会員 藤井 聡  
 京都大学大学院工学研究科 正会員 宮川 愛由

京都大学大学院工学研究科 学生会員 沼尻 了俊  
 京都大学大学院工学研究科 学生会員 山田 慎太郎

1. 背景と目的

日本はここ 20 年来デフレ不況の状態にあり、政府はこれに対し適切な経済政策を打ち出しデフレ脱却を図っていく必要があるものと考えられるが、デフレ脱却には至っていない。これは近年取られてきた「緊縮財政」や「公共事業の削減」といった諸政策が不適切であったという可能性を示すものであると考えられる。

しかしながら、わが国ではこれらの新自由主義に基づく政策は一般世論から多分に支持されてきたといえる。これらの政策が支持される一つの要因として、マスメディアの新自由主義に対する言説に何らかの詭弁が含まれていると考えられる。

そこで本研究では、マスメディアの新自由主義に対する言説に含まれる詭弁を論理的観点から指摘し、さらにそれが国民の新自由主義的政策の受容意識に及ぼす心理的影響を実証的に検証することを目的とする。

2. ドミナントストーリーの分析

田中ら<sup>1)</sup>が行った研究では、国民世論はマスメディア各社が共有する「ドミナントストーリー」に強く影響されていることが指摘されている。ドミナントストーリーとは、国民世論の中で広く共有されていると考えられ、実際に新聞社説の中で支配的に述べられている物語である。田中らの研究では、それらの物語が文章かされており、各物語は「消費増税物語」、「脱公共事業物語」、「構造改革物語」、「外に打って出るしかない物語」について書かれている。これら物語は新自由主義的政策に該当するものであり、よって本研究ではこれら物語をマスメディアの新自由主義に対する言説として分析する。

分析方法は山田ら<sup>2)</sup>の詭弁に関する研究で行なわれた方法を参考にしつつ行なった。ドミナントストーリーの分析は各物語で行ったが、ここでは紙幅の都合上、

その一例として「脱公共事業物語」のとその分析結果を以下の表 1、表 2 に示す。

表 1 脱公共事業物語

脱公共事業物語	
十分なインフラが整備された今日の日本では、公共事業はもはや無駄なものが多く、非効率な投資を不用意に推し進めたせいで財政赤字も膨らみ、期待された景気対策効果も薄かった。だから今となっては、旧式の公共事業で構成される経済政策ではなく、新たな経済成長戦略が必要なのである。	

表 2 詭弁の分析

脱公共事業物語		
	詭弁箇所	詭弁の分類
1	十分な	予断冠飾句
2	もはや無駄なものが多く	短絡帰納
3	非効率な	予断冠飾句
4	不用意に	予断冠飾句
5	せいで財政赤字も膨らみ	因果関係誤認の虚偽
6	旧式の	旧式嫌い
7	ではなく	不当対比
8	新たな	新奇マニア

そしてこれらの詭弁を取り除くように新たに文章を書きなおし、これを詭弁のない文章とした(表 3)。

表 3 詭弁のない文章(公共事業について)

公共事業の必要論
日本の道路、新幹線、港などのインフラの整備水準は、他の先進諸国と比較すれば、未だに低い状況にある。また、公共事業が日本の財政悪化を招いたと言われることもあるが、日本の公共事業関係費は1998年より大幅に削減され、今日ではピークの半分以下なのが実態である。一方で社会保障費は大幅に増加しており、それこそが今日の財政赤字拡大の最大の原因である。また、公共事業は経済成長以外にも社会的安定や防災や環境、景観など実に様々な効果を持つものであると同時に、長期的には国の産業基盤を強化し、生産性の向上、経済成長に貢献し得るものでもある。したがって、新たな成長戦略の模索も必要ではあるが、先進諸国のインフラ整備水準を見据えた公共事業を進めることは今日においてもなお、成長戦略の重要な一翼を担うべきものである。

3. 実験概要

実験は、詭弁の有無を説明変数とする被験者間計画で行われた。被験者は2つの群、A群B群に分けられ、それぞれ4つの文章を通読する。文章は先に述べたドミナントストーリーを構成する4つの物語であり、そ

のそれぞれに対し詭弁のある文章、詭弁のない文章があり、計 8 種類の文章を用意した。A, B 両群ともに、4 つのテーマすべてについての文章読了を要請したが、そのうち、2 つが詭弁あり文章で残りの 2 つが詭弁なし文章とした。A, B 群に割り当てられた政策テーマと詭弁の有無の組み合わせは下の表 4 の通りである。

表 4 群と文章の割り当て

	消費税増税	公共事業	構造改革	TPP
A群	詭弁あり	詭弁なし	詭弁あり	詭弁なし
B群	詭弁なし	詭弁あり	詭弁なし	詭弁あり

また各文章は政策ごとに文章の唱導方向があるのでそれを以下の表 5 に示す。

表 5 各文章の唱導方向

	詭弁あり	詭弁なし
消費税増税	賛成	反対
公共事業の拡大	反対	賛成
規制緩和	賛成	反対
農業改革	賛成	反対
規制緩和	賛成	反対
TPP	賛成	反対

文章の唱導方向とは、政策テーマが例えば「公共事業」である時、詭弁あり文章は「公共事業の拡大」を反対の意見になるよう説得するものであり、この説得内容の方向性が唱導方向である。

#### 4. 結果と考察

実験は京都大学と筑波大学大学院での講義中に行われ、計 112 名から回答を得た。得られた政策賛否について、詭弁あり、なしそれぞれで政策テーマごとに、被験者内要因を「事前」と「読了後」の 2 水準とする反復測定分散分析を行い、以下の結果を得た。

表 6 詭弁あり 反復測定分散分析

		N	M	SD	F値	p値
消費税増税	事前	56	-1.39	20.549	0.08	0.779
	読了後	56	-1.79	18.772		
公共事業の拡大	事前	55	18.38	11.605	15.443	0.000***
	読了後	55	12.42	14.681		
規制緩和	事前	56	-2.04	15.563	2.501	0.12
	読了後	56	0.52	13.75		
農業改革	事前	56	8.38	15.212	1.063	0.307
	読了後	56	6.5	12.31		
法人税減税	事前	56	1.46	16.655	0.854	0.36
	読了後	56	2.66	16.248		
TPP	事前	56	-4.09	18.886	3.506	0.066*
	読了後	56	-0.95	16.351		

表 7 詭弁なし 反復測定分散分析

		N	M	SD	F値	p値
消費税増税	事前	56	-0.21	15.864	0.136	0.714
	読了後	56	0.27	14.96		
公共事業の拡大	事前	56	13.48	16.936	0.192	0.663
	読了後	56	14.3	8.973		
規制緩和	事前	56	0.38	14.954	0.013	0.911
	読了後	56	0.61	15.536		
農業改革	事前	56	12.18	17.036	9.095	0.004***
	読了後	56	7.14	13.395		
法人税減税	事前	56	1.7	13.791	0.014	0.906
	読了後	56	1.54	14.04		
TPP	事前	55	-6.78	18.839	0.09	0.765
	読了後	55	-7.33	16.72		

詭弁ありでは、事前と読了後で 2 つの政策で有意な賛否の変化が見られるのに対し、詭弁なしでは、1 つの政策のみが有意に変化した。

次に 6 つの政策を政策ごとに分析するのではなく、詭弁の有無のみに分けて同様の分析を行うと、結果は以下の表 8 のようになった。

表 8 詭弁有無での反復測定分散分析

		N	M	SD	F値	p値
詭弁あり	事前	334	-2.64	17.948	6.798	0.010**
	読了後	334	-0.95	16.402		
詭弁なし	事前	335	-1.02	18.01	1.957	0.163
	読了後	335	-2	15.66		

詭弁ありでは賛否が事前と読了後で有意に変化しているのに対し、詭弁なしではそのような変化が見られなかった。

またアンケートでは政策賛否に加え、文章のイメージ、すなわち「文章に納得できる」「文章はわかりやすい」「文章に賛同する」を被験者に問うた。これら 3 変数の内、「納得」と「賛同」は信頼性分析を行ったところ、その  $\alpha$  値は 0.857 となり一定の信頼が得られたので、これらをまとめて「納得度」とした。

文章イメージの比較をすると、詭弁あり文章は詭弁なし文章に比べ、「納得度」は低いが、わかりやすい、という傾向を持つものであることが読み取られた。

そこで賛否変化と文章イメージの関係性を調べてみたところ、詭弁の文章を読んだ被験者は自身が納得できないが、文章の説得内容に意見変容をする傾向があることが示唆された。

#### 5. 結論

本研究で得られた結論としては、詭弁の文章は詭弁を含まない文章と比べ、被説得者を意見変容させる力が大きく、またそれは被説得者が納得していなくても意見変容に大きな影響を及ぼすことが示唆された。

#### 参考文献

- 1) 田中皓介, 中野剛, 藤井聡: 公共政策に関する大手新聞社説の論調についての定量的物語分析, 土木学会論文集 D3, Vol169, No.5, p.353-361, 2013
- 2) 山田慎太郎, 藤井聡, 宮川愛由, 高橋祐貴, 田中謙士朗, 為政者の政治的言説における詭弁に関する実証的研究, 土木計画学研究・講演集, CD・ROM, 53, 2016